

いら立ち「老後のカネは」

AJ自転車操業のスキーム



家宅捜査のためA I J 投資顧問と傘下のアイティーエム証券のあるビルに入る警視庁の捜査員ら=19日午前、東京都中央区 (小野淳一撮影)

A I J 事件で警視庁捜査2課は、当初立件が難しいとみられていた詐欺容疑の適用に踏み切った。少子高齢化時代に巨額の「年金」が消え、世間の注目を集めることで行われた捜査。最大の焦点は、事件を主導したとされる浅川和彦容疑者の「故意の立証」だった。

自転車操業

A I J 社長ら逮捕
不信の矛先基金にも

資産を委託していた基金の信
「資産がどのくらい戻
のか。捜査で隠し財産を
ほしい」

今回被害者となつた東
区の半導体試験装置メー
ドバンテストの企業年
係者はこう話す。

同基金はリーマン・シ

京都練馬
カ一「ア
金基金関
ヨツク後
昭容疑者



西村秀昭容疑者

同基金は再発防止策として、財務分野に詳しい理事長に交代させ、外部からコンサルタントを探用。「素人では運用できないと反省し、これからはプロに任せせる」と話す。

A I Jによる運用損失の余波で、都内と札幌の2基金がすでに今年度中の解散を決定した。「次は自分たちが解散する番かもしれない。逮捕されても、力ネが戻つてこなければ意味がない」。東海地方の年金基金の理事はこうつぶ

のとき初めて 加盟する基金が A.I.J. に約 28 億円を委託していたことを知る。それ以降、基金側から十分な説明がなかった。
基金の運用担当常務理事は旧社会保険庁 O.B.。「まじめにコツコツやってきた中小企業から集めた資金の運用について、失敗した責任を取る気があるのか」。憤りが募った。
松橋社長は基金の財務分析を専門家に依頼。その結果、366 億円あるはずの資産が、実際は 115 億円減の 221 億円だったことが判明。積み立てていた企業年金

は底を一歩公的年金の一部を引き受けたて運用する代行部分についても積み立て不足に陥っていた。もし基金を解散すれば、代行部分の不足分を加盟社で負担しなければならない。社員一人当たり五万円の出費だ。任意脱退すれば、解散よりも費用の負担が3倍になる。

「抜けるのも地獄、とどまるのも地獄。社員の老後の力ネなのに、逆に多額の借金を背負わざねるなんて…。こんなことが許さねるのか」。基金への不信感、いこだちは募るばかりだ。(1面参照)

「顧客だまそ」と
A-I-J投資顧問で年金運用を手
ける以前は、野村証券で敏腕営業
人として鳴らした浅川和彦容疑者
計4回行われた国会の証人喚問や
考人質疑では、持ち前の「詰術」
駆使して自らの正当性を訴えて
た。

虚偽の運用実績を示して勧誘し
いたことについて問われると「『
偽』ではなく『水増し』した実績
虚偽という言葉には悪意があるが
水増しにはない」と持論を展開
「顧客をだまそうとした」とは一

したことは一切ない」
「ようと思ったことがある」と弱気な一面も見せ、損失を出した状態のまま（顧客に）返せないという気持ちで取り組んできた」と説明し、一方、アイティーエム証券社長の中西村秀昭容疑者（56）は、国会質疑の中で「どちらか」というと被害者だとと思うが、ファンドの販売に関しては「責任がある」と従属的な立場だったことを強調。「A.I.Jを信用しておらず、運用が虚偽だという認識は持っていました」と繰り返していた。

A I J 投資顧問による年金資産詐取事件で19日、A I J 社長、浅川和彦容疑者(60)らが逮捕された。しかし、貴重な老後の備えが「食い物」にされた余波は、收まる気配を見せない。被害に遭った

の平成21年、利率の良さにひかれ、A.I.J投資顧問と資産運用の契約を締結。11億円の運用を任せ、昨年には新たに5億円の運用を託した。

やいた。だが「眞の被害者」は基金ではなく、基金に資金を預けていた加盟企業や社員らだ。このまま年金資産が戻らなければ、影響が老後の生活に直結する。